

香葉



1987

NO.16

短大祭参加

『田中喜美子先生講演会』



テーマ「変わる女性の生活

…あなたの選択はどこに」

日時：11月21日(土) 13:00より

場所：チャペル

香葉会主催の講演会も第3回を迎えました。今年「わいふ」の編集長であり、「株式会社グループわいふ」の代表取締役でもいらっしゃる田中喜美子先生をお招きすることになりました。是非お友達と一緒ににお出かけ下さい。

尚、一応のご返事を11月18日頃までにお出しいただけると幸いです。(当日参加も大歓迎です)

講師の紹介

1930年東京生まれ。1959年早稲田大学仏文卒業。「グループわいふ」は「わいふ」発行の他「ハイスクール・レポート」「安く入れる有料老人ホーム」など、ユニークなガイド・ブックの発行が多くマスコミに注目されている。活動歴としては、日仏女性資料センター運営委員、全国PTA問題研究会、日本女性学会など、教育運動、市民運動、女性運動多数に関係している。

著書 「書きたい女たちへ…体験的文章入門」(径書房)

ルポルタージュ「妻たちはガラスの靴を脱ぐ」(汐文社)

講座「主婦」全三巻(共著)

「手探り 女の自立」(毎日新聞社)(共著)他多数

★香葉会の部屋★ご案内

卒業生と在校生、教職員との交流の場として、又、卒業生の部屋として3号館101号室にて、コーヒーと手作りの菓子のサービスをいたします。皆様お誘い合わせの上、是非お立寄り下さい。

念願のチャペル完成！

学院100周年記念事業の一環として短大ではチャペルの建設を計画し、本年3月31日に完成しました。短大のシンボルともなるこのチャペルは永年、学生や教職員、卒業生などから待ち望まれ、1200余件もの寄付も寄せられ、香葉会としてもほんのわずかながら名を連ねることができ、たいへん喜ばしい限りです。この建物は5号館と命名され、1階と2階に教室、3階と4階がチャペルで、十字架をかかげた塔の



6階には祈禱室があります。一步チャペルの中へ入るとそこには厳粛な空気の中に明るくさわやかな、短大らしい空間が広がっています。このチャペルは毎週金曜日に行われる礼拝、様々な講演会の会

場として利用され、卒業生の心の寄りどころとして末永く愛されていくことでしょう。

なお、2年後には西ドイツ製のすばらしいパイプオルガンが設置される予定です。また一段と輝きを増すことでしょう。



短大の現状

学長 林 淳三

本学は一九四六年、三春台の地に女専を開設してから、すでに四〇年余の年月をへました。その間、校舎施設など不備にかゝらず、多くのすぐれた人材を輩出してきました。最近、漸く校舎などの整備ができましたので、昭和六十二年四月十日、同窓会の皆さんのご支援を受けて建築されたチャペルを披露するとともに、関東学院女子教育四〇年記念式を挙行致しました。

本学にはこの四月から、経営情報科という社会科学系の学科を新設致しました。本学はこの経営情報科と、従来からの英文科、国文科、家政科（家政専攻、生活文化専攻、食物栄養専攻）、幼児教育科を合わせ、五科三専攻からなる総合短大に発展したのであります。現在の学生数は一七五〇名であり、これを専任教員六一名、非常勤教員一四〇名、合計二〇一名の先生方が教えておられます。また、短大内の組織も、昨年には学生々活部に就職課と学生相談室が設けられ、企業のエキスパートを職員にすえ就職のお世話や、専門のカウンセラーを配して学生の皆さんのいろいろな悩みにつき相談を受けつけています。さらに今年度は国際交流センターがつくられ、夏期の短期語学研修はもとより、留学の相談、外国大学の紹介など、今後は本学の国際交流事業の中心となります。また、電算機室という組織がつくられ、ファコム三四〇Rという本格的コンピュータがすえつけられ、情報処理教育、先生方の研究、就職課を手始めに事務の電算機処理などが行われることになりました。このように本学は大学としての管理組織が次々に整備されますので、学生々活も

ずいぶん便利になるのではないでしょうか。このほか明年には、家政科生活文化専攻の陶芸教室がグラウンド一隅に造られる計画があり、さらに、一九八九年十一月には、チャペルに大型パイプオルガン（西ドイツ、ヤン社製）が入れられる予定です。

行事としてはこの夏、昨年同様海外語学研修団としてハワイ大学二週間三六名、カナダUBC一五名を派遣しました。また、本学の生活文化研究所が神奈川県と共催する公開講座も一〇月から毎週一回、一〇週間にわたり開設されます。毎年一〇〇名の定員に対し、五〇〇名近くの応募があり、抽選により出席者を決めている状態です。今年のテーマは「女性と生活文化Ⅲ」であり、老いと女性の生き方についての問題が取り上げられます。

本学は女子の短大、すなわち、大学教育を二年で行う女子のみを対象にした教育機関、というのが特徴であります。しかし、この女子短大の特徴は、また不安定な要因になっていきます。特に最近、専修学校専門課程が追いあげてきて、短大は四年制大学と専修学校に挟まれる状態になっていきます。数ある短大の中には昭和六十年後半の学生減少期に、その存立が危ぶまれる学校もあります。本学はいま、女子の大学としての形が整えられ、一応わが国有数の短大と言われるようになりました。しかし、今後このレベルを持続し、さらに発展させるためには、常に時代のすう勢をみながら摸索をくり返し、改革を加えて行く必要があります。すなわち、四年制大学や専修学校にない教育、本学特有の教育が行われなければなりません。それは今後の大きな課題です。また、それを実施するには、教職員それぞれが、建学の精神を体し、献身的な奉仕と努力が必要であります。同窓会諸先輩のご支援をお願い致します。

特集

我が母校、女子教育四十年を迎え……

今日の短大を築いた諸先輩からの声

一九四六年、関東学院三春台校地に、女子の高等専門教育をめざす新しい学校が創立されて四十年。この節目の年に母校では真の女子教育とは何か、という課題に沿って記念事業委員会が組織され、写真集の編集、記念式典・祝賀会を行いました。香葉会としても短大の歴史はイコール卒業生の歴史であり、また会の歩みでもあります。そこでゆかりの諸先輩からの声を集めてみました。

女専創設の前後

元学長 相川 高秋



一九八八年春、私の自叙伝が出版される事になっているが、一九八三年迄五十五年間、関東学院に勤めた私の自叙伝は、或る意味に於て、学院の裏面史でもあるので、この表題の事情は詳しくその中に書かれている。以って私としては、その方を読んでもあると思うので、極く簡単にその頃の事を此処に書かせて頂く事にする。

一九四五年五月二十九日の横浜大空襲で、その建物設備の四分の三が焼失して完了した学院が八月十五日の敗戦を迎えて、九月早々取りかかったのはその再建の計画であった。当時捜真女学校も校舎を全焼されて

三春台に同居していたので、最初の坂田院長（捜真校長兼任）の案は、両財団が合同して一つの良い中等学校（専科併設）を作る事であった。併し捜真理事会の強い反対に逢って、其は廃案となり坂田氏は捜真校長兼任を辞任した。残されたのは関東独自の再建であったが、当時三春台の航空工業専門学校の校長代理であった私と財務担当理事兼同専門学校の教授であった古賀武夫氏とは、強く専門学校の存続を主張して、今日の大学、短大の基礎を築いたのである。専門学校存続としては、先づ当時の航空専門学校の継続が必要だった。それに既に十六回の卒業生を出し、政府の要請で無理々々航空に変更させられた高等商業の復活も是非やらねばならなかった。その上坂田院長の女子教育の夢も捨てられず（反軍国的日本を作り出すための女性エリートの養成という私の強い夢もあって）遂に敗戦直後の関東としては、無謀とも云うべき、工業、経済、女子三専門学校同時設置という事になったのである。その為には更に広い校地と設備が必要だったので、私と古賀氏と時には院長迄、ゲートル巻きで一ヶ月近く、逗子辺り迄の広い範囲に渡って、死の苦しみの校地探しをしたのである。

（その事に関しては紙数の関係上省く）

同年十二月になって、やっと六浦の現在地が手に入り、私共は文部省に対して、三校設置の申請運動を始めたのである。文部省は、「この非常の際、三専門学校新設とは、全く馬鹿げて話にならぬ」と始めは、冷く一蹴されたのであったが、別著自叙伝に詳しく書いた様な経過を迎って、翌年四月やっと認可が下りたのである。

一番難かしかつたのは勿論全く新設の女子専門である。私は私の一生の内、この時だけ不正すれすれの手段迄とって、文部省の担当事務官（後の聖心女子大学長）に、最後の印を押させたのである。（自叙伝参照）そんな訳で私が校長になった。

同年六月になって、やっと授業の始められた女子専門では凡ゆる新

しい試みをしてみた。(敗戦直後の日本には何の制限もなかった)ので、学校行事も、教授と学生との協同協議会で決定し、私は毎日礼拝后、学生に対して親しく短い話をする時を持った。地域にも働きかけて、日曜日の午后「婦人教養講座」を開き何人かの有名人にも来て貰った。校長室への出入りは全く自由であって、色々な要求をもって彼女達は押しかけて来た。或る時は、私の不信任案に近い抗議文をもって押し寄せた一群の中に、私の個人的に親しかった一人の学生がいて、私は覚えていないが帰りぎわに私が彼女に「ブルータス、お前までか」というシーザーの言葉を言ったという話を最近本人からきいて苦笑した事もあった。図書等も学生達と町に出て購入し、その際近くの喫茶店で彼女等とお茶をのんだ話が院長の耳に入り、「校長らしく行動せよ」という様な忠告が年輩の教授の口から私に伝えられた事もあった。今でも、もう孫のある当時の教え子達数人とは親しく付き合っているが八十二才も近い私は、その様な時は何時しか四〇数年の昔に帰った気持ちになり、彼女等も其頃の娘時代に帰った様な気がするらしいのである。

短大一回当時のこと

会長 古城 房子



昭和二十五年に札幌から出て来た私は横浜の余りの変りように呆然としました。施設には進駐軍の基地が点在し、かまぼこ型兵舎や軍用トラック、戦車が並びジープが走り廻り本牧、山下公園等の一等地は米軍の住宅に占領され、横浜駅西口は雑草の茂った荒野でした。三春台にあった短大校舎は

古い建物とプレハブで冬はオーバーを着ても寒いお粗末さ。学生主事の部屋は机と椅子丈で一杯になる半畳位のもので相談に行く学生は外に立ったままという有様でした。しかし学内は自由闊達な気風にあふれ、先生と学生が共に新しい学園を作るのだという意気込みが感じられ、輝くような活力と積極性と個性をもった女専の先輩達は私達短大生の尊敬と憧れの的であり眩しい存在でした。「先輩の頑張りのおかげで君達は随分得をしているんだよ」とよく云われました。女専が開校した二十一年は食物も着る物もなく多くの方が家も失っていましたから、どんなに大変だったか想像が付きません。その中で先輩達は今の短大の基礎を作ったのでした。先生方とも仲間意識の親しさがありスポーツも寸劇もダンスも一緒に楽しみました。シェイクスピア劇はすでに始まっており衣装はカーテンや端切れで手作りでした。玉石混合の私達相手の授業は先生方の悩みの種だったと思いますが、先生方の情熱に引きづられながら二年で教員免許を載けたのも女専の方達の実力でかちった免許試験のお蔭でした。毎日一時限の後二十分の礼拝を全員で守り先生が交替で説教をされました。坂田院長もよく校訓の話をされ、当時は又か等と思ったものですが、そのすべてが私達の根となっている事を思い今更ながら感謝しています。待望のチャペルが完成し立派に整った現在の短大に、先輩達の意欲と情熱と精神が脈々と生き続ける事を祈って止みません。

(短一英)



昭和22年 学校祭
演劇「クラス会」

はじめて短大に勤めた頃のこと

兵藤 正之助



ある日、短大生

が一人、講義終る

や、そばにやって

来て、こうささや

いた。―「先生は

どうして、お講義

のあいだじゅう、膝がふるえていらっしやる

の？」

小さい教室、ぎっしりつまった五十余名の

最前列、ぼくの鼻っ先位に座っていた学生だ。

まことにお粗末なコの字型の机の教卓だから、

前にいけば、ぼくの両足はまる見え。

くそっ！「お講義」も何もねえもんだ。わ

ざわざからかいて来やがって！ ああ、女の

子てえのは、何とまあ意地の悪いもんか、と

はその折りの痛感。くやしがつっても、事実は

そうだった。

昭和二十五年四月、独身にして芳紀まさきに

三十歳、三春台での二回目の講義の日の事と

今も鮮やかなのは、この意地悪娘にわが心臓

部をいぬかれた思いだったからだ。

口はからから、眼はうつろ、自分が何をしゃ

べっているかも定かならず、背中には冷汗し

とど。これがぼくの初講義のいたらしく、膝のふるえも当然だった。

ちなみにこの頃同居していた母の曰く、お

前この頃、いびきをかいてねているけど、学

校、そんなにつかれるの？ と。

またある日。今度は研究室にきた別口のレ

ディ。しゃりっと白いドレス、口紅くっきり、

アイシヤドウもきつい美女。坐るやいきなり

しゃれた銀のシガレット・ケースと金のライ

ター（当時珍しかった）を、何とも小粋な手

付きで取り出し、パチンと手さばきも見事に

ケースをあけ、「先生おひとついかが？」と

きた。さらに眼を見ながら、右手指をぐいっ

と口辺で左から右へひく仕草とともに、言っ

たものだ。「先生、このほうも、相当おやり

でしょ？ 今度いつか・・・」

きけば二十七歳、三月まで東京で編集者を

やっていたとか。

「あなたの学校は、まるでファッション・

ショウ見てるみたいだね」とは、この頃やつ

て来た友人の感想だが、今とはちがって戦後

間もない横浜の娘たちは、何とも派手な姿で

通学していた。それがほとんど男ばかりの環

境の中で生育してきたぼくなどには、心乱さ

れることおびただしく、ましてや、膝がふる

えるの、おひとついかがなうてやられた日には、どうにも心の安定が保てぬといったあんなの連日だった。

どうも口を開けば妙な話ばかりで、われながら「女子教育四十年」の特集号むきではな

いなと思いつながら書いていた次第だ。

でもほんととはほんと。女の國に男が独身で

教員となるには、まことにまことに目に見え

ぬところで思いがけない苦勞を重ねるものだ

ということを、実は言いたいわけなのだ。

だからぼくは、女の学校に勤めるんだと胸

をわくわくさせている（ぼくもその一人だっ

た）若い人を見ると、思わず「やめといた方

がいいんじゃないかな」と言いたくなるが、

敢えて告げぬことにしている。

それにしても、よくまあ、あんなことから

はじまって三十七年も短大に勤められたもん

だなあ、とはこの頃しきりに思うことである。



女専 地下室で
スクエアダンス

チャペル竣工に寄せて

松本久子



香葉会の皆様も既にご存じのように、本年四月十一日にチャペルの落成披露と共に女子教育四十年記念式

典が、多くの来賓、卒業生や学院関係教職員・学生の参列のもとに竣工なったチャペルで行われました。このことは職員の人として心から嬉しく思っております。

三春台時代。(昭和二十八年度迄)当初は戦災で焼け残ったトタン屋根直かの体育館で、後にグレースット記念講堂で、時には霞ヶ丘教会を借用して礼拝が行われておりました。六浦校地に移転(昭和二十九年三月)してからは大学と合同で旧海軍の工員養成所の残った古い暗い講堂で、又大学四号館二階の教室を使用して礼拝が行われておりました。

そして短大が室の木校地に移転(昭和五十四年)結集後は教室を使用して礼拝が守られて来たのでした。それでも宗教強調週間の催しや宗教委員会主催の特別宗教講演会など学外からの講演者を迎えて、感銘深いお話

を伺ったことが多々ありました。特に昭和三十年代初め頃、あの暗い大学の講堂で行われた宗教強調週間での講演会で、今は亡き作家椎名麟三氏の講演は私の心の目を開かせてもった強烈な印象が残っています。

短大が室の木校地に移転してからは教室を使用しての礼拝なので学生が教室一杯なこともある出席することもなく打ち過ぎましたが、毎週金曜日にとぎれることなく礼拝は行われておりました。私はこの度のチャペルの完成は人の手に成るものではありませんけれど、本当に素晴らしい短大への神様からの贈物と思っています。

明るく開かれた様式の六百名以上の座席のある礼拝堂です。落成披露の日も多くの女専・短大の卒業生が参列して下さり共に喜び合うよい式でございました。

竣工成ったチャペルでの礼拝は学生の出席も多く、よいチャペルアワーが持たれていきます。

香葉会の皆様のそれぞれの時代の学舎での思い出を携えて、中庭グリーンの芝生を前に建つチャペルへ是非一度お出かけ下さい。

私たちが短大を去った後も短大の永遠のシンボルとして清楚な姿で、何時でも訪れるも

のを迎えてくれるものと信じております。

昭六二、八、二四

あの丘の上の校舎から

英文科 第二部 光畑 清

昭和二十六(一九五一)年に入学した者の数が男女合わせて一五名にものぼり、昼間の女子学生の入学者数六二名の、なんと一・八五倍になったと云われるから驚きである。これらの夜学生は勤労男女青年であり、戦後間もない、ようやく日本の社会情勢も落付きを見せ始めたこの時期に、勉学の機会と学生々活の場を与えられたことは、幸いであった。

それも、駐留の外国軍隊での職場に勤務する者が多く、新たな思いをもって英語を学ぼうとする者、戦争中の疎な語学教育しか受けられなかった者達が、この時とばかりに飛びついたのであった。

あの丘の上の校舎へ、昼間の務めを終え、疲れた足を引き摺るようにして普門院横の階段を登る。運動場の脇から、また階段を登って、ようやく登

※へ15ページ下段へ続く



英文科一回生

三春台の塔の前で

女専のページ

今回の女専のページは特に四十年を記念しての投稿をお願いいたしました。

在学四年の思い出

英二 森谷(馬淵)昭子
廃墟の中の一つの心象風景として、三春台の古城にも似たかわいらしいチャペルの塔の屋根が浮んでくる。入試作文の課題は「光」正にこの丘での女専の開校は、学徒動員に明け暮れた私達に明るい希望の灯となった。

しかしアルファベットもろくに知らぬ軍国乙女が試験にパスする筈もなく予科へ。ここで物心共に飢えの世代の人が肩を寄せ合せて勉強することになった。いつもお腹を空かせていて、着るものとして私はモンペのままだったし、素敵なオーバーを着ている人はと見れば進駐軍の毛布で作ったものだったりした。某先生の大きな靴下の穴、新聞紙に包んだふかし芋のお弁当、それでも自由を取り戻した私達は底ぬけに明るかった。大下先生のユニークな英文法や、時田先生の同時通訳の素晴らし

かったことも忘れられない。

一年間特訓の末、英語の聖書もなんとか読めるようになって女専に進んだ。英文二回卒はこの予科からの人が多く、他からも語学の才媛達が続々と集って国際親善に花を咲かせた。在学四年、幅広い教養を与えて下さった諸先生方の思い出はつきない。そして身をもって示された「一人になれ、奉仕せよ。」の精神は人生の指箴となって、今も学ぶことの大切さを教えていくくれる。

女専の思い出

家二 石黒和子(内田フミ)
家政科に最も係り合いの深かった先生は、今は亡き楡垣先生と角田(後中居)先生で、特に忘れ難い思い出は数々あります。

戦後、皆何かを求めて、女専に入ってきたもの、貧困な時代に、家政科として卒業迄頑張り続けることは容易なことではありません。入学時、二十数名だった同期生は二年目には半減しました。経済的理由の他に、内容的にちよつと不満があったのかも知れません。淋しい二年生が過ぎ、私も遂に学費が続かず退学を申し出ました。ところが楡垣先生から強くさし止められ、説得され、氣持を新たに

して続けることになりました。角田先生とお二人で色々助けて下さいました。ブラウスや靴下を時々下さいましたし、実習に使う教材が無ければ何時でも貸して下さいました。角田先生は夏休みに御自分の着物の仕立直しや男の先生の開襟シャツの仕立てをやらせて下さいました。又、夏期講習のとき、コーヒークずもち、アイスキャンデーを売るアルバイトもさせて下さいました。こうして苦しい中にもアットホームな暖かさに包まれ乍ら、嬉しい卒業が出来ました。すばらしい先生に出会えて本当によかったと思っています。



家政科一回生 三春台のカップウ室での実習

「ベニスの商人」を上演の頃

英一 中嶋(有村) 貴美子

橄欖の校章のついた赤い表紙の古ぼけたアルバム、その中にセピアに変色した二枚の写真があります。昭和二十三年の秋、女専第一回生が上演した「ベニスの商人」の写真です。戦災の焼跡も生々しい三春台の校舎に入学した頃は、今の中学一、二年程度の英語力しかなかった私達でしたが、夏季講習で受けた太下繁先生の絶妙な御指導でぐんぐん力をつけ、三年の秋には曲りなりにも「ベニスの商人」を上演しようと云う程になりました。故光畑先生の何度も繰り返し返されるきびしいイントネーションの駄目押しに四苦八苦も致しましたが、私達も一生懸命セリフを覚えめました。衣装は東宝撮影所でお借りしたものの、体育館にテーブルと椅子、バックに黒い布を配した丈の舞台装置。「アントニオの肉一ポンドは取ってよろしい。しかしキリスト教徒の血を一滴たりとも流してはならない。……」と云う有名なポーシャのセリフは今でもなつかしく思い出します。

あれから現在まで、シェイクスピア劇が連綿と続いて短大の名物行事となっている事は、第一回を演じた私達にとって、とても嬉しい

ことです。

「校章の人文字」

家一 横山(串田) 涼子

昭和二十年の終戦の年、その後、二、三年は夏の暑さ冬の寒さを特に厳しく感じたことを覚えていきます。食料、衣類の不足、環境の悪さ等で余計、そう感じたのではないでしょうが、二十一年の七月初旬、その暑い太陽の下で私達女専第一回生は校庭に、校章のオリイブでの葉の人文字を画いておりました。そう

あれは二十一年六月一日入学式から一ヶ月後くらいでしたでしょうか、四十年という長い歳月の流れに私の記憶もおぼろになっておりますが、学校祭が行われたということは、はっきり思い出されるのです。あの戦後の全ての物資不足の折にどうやっていろいろの展示品等を揃えたのかと思うのですがとにかくあったのです。家政科の展示室はあの時代らしく代用食の実物と材料、作り方の説明書、きつとお芋とメリケン粉が主役だったと思います。又土肥先生の御指導によるアミノ酸正油の作り方、その道程も展示されたように覚えております。家政科には絵の上手な方が何人かいましてその方達による坂田院長を始め相川先

生、時田先生、楡垣先生等、諸先生の肖像画を掲げましたことも好評でした。そして最大のイベントは「修善寺物語」の上演でした。金子さんの夜又王、大矢さん、村垣さんの桂と楓、大川さんの頼家、林さん、後藤さん、原さん等の名演技、そして大道具、小道具の係の活躍による名舞台上に拍手喝采を受けたのでした。この学校祭で華やかな英文科に比べ地味な家政科の存在がチョッピリ認められたことも嬉しいことの一つでした。

女専開校四十年の特集、当時の思い出という事で一番先に思い出したのは、あの暑い夏の日的人文字でしたがあの時のあの写真をお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか、英文科の方達の催しが何であったのか、又合同クラス会でお目にかかった時に伺いたいと思っております。



女子高 演劇「修善寺物語」

柳生直行先生を追悼して。

「一粒の麦が実る時」

柳生先生の学院葬に出席して。

吉屋保子

初秋の九月二十一日、大学七号館に於て、柳生先生の学院葬が厳かに行われました。

長い会葬者の列の中に久しくお目にかゝらなかつた、恩師やクラスメートの愛いをおぼくんだ顔が通り過ぎて行きました。

私達が初めて先生にお目にかゝつたのは、昭和二十七年の春、三春台の校舎だったと記憶しています。当時の先生は長身で緑なしメガネをかけて一寸キザな感じでしたが、アメリカ帰りのハンサムな先生として女子学生にとっても人気がありました。教室はいつも満員で活気にみちていました。先生は私達に英語だけでなく、シエイクスピア劇まで指導され、その若くてエネルギーあふれる情熱のすべてをそゝいでこられたように思います。

また、先生は牧師としても私達に、たえず「神の愛」についてお話して下さいました。私達は先生がご病気で入院なさった時、十六才の若さで先生を永遠のふるさとに迎えようと備えておられた主イエスの聖なるご計

画については何も知りませんでした。

九月三日、先生は英文学者として教育者として又、牧師として此の地上での奉仕の生活を終え、天の国に凱進されました。そしてその時、よろこんで主を受け入れ主の器として福音を述べ伝え、主を愛してこられた先生の信仰は成就されたと思っています。

主は先生を通して豊かに実を結ばれたのです。「一粒の麦は地に落ちて死ななにかぎり、いつまでたっても一粒のままだ。だが死ねばたくさんの実を結ぶに至る。」(ヨハネ・12・24)

神は再び先生が学院に帰る事を許されませんでした。主イエスはなぜこんなに早く先生を天のふるさとに召されたのでしょうか？私にはわかりませんが、でもこれだけは言えそうです、すべては主のみ心のまゝになされた事であり、先生は天の国のために十分な備えができていたからです。

「わたしはこう確信している、死も生も、天にも権力者も現在の世界も来るべき世界も、高きにある力も低きにある力も、その他いかなる被造物も、われらの主キリスト、イエスを通して示された神の愛から、われわれを引き離すことは決してできないのだ、と。」

(ローマ・38・39)

私のクラスメートである柳生二三夫人も立派な信仰生活を送っていらっしゃいます。

病床で詩篇を子守歌のかわりに読んであげると先生が眠りにつかれたと前夜式の時に伺いました。白菊にかこまれた先生のお写真が今も私達に静かに語りかけているような気がします。

「狭き門から入れ。滅亡にいたる門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多い。生命にいたる門は狭く、その道はきびしく、これを見出す者は少ない。」

(マタイ 7・13・14)

どうぞ一人でも多くの人達が罪を告白し、主イエスを受け入れ永遠に滅びることのない生命が得られますように。

先生が召天され今、いちばん深いお悲しみの中にあるご家族の上にどうぞあなた達の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。そしてまた会う日まで、しばらくの間お別れをいたします。

敬愛する柳生先生サヨウナラ。

一九八六・九・二八記(短英二)

(聖書のみ言葉は、柳生直行訳を使用しました。)

中国の大学との交流

国文科長 岡松和夫



五月四日から十一日まで、東洋大学の桶谷秀昭さんと二人で中国に出かけ、大学を二つ訪問し、講演もしてきました。一つは瀋陽市（旧奉天）にある遼寧大学で、もう一つは北京市にある北京第二外国語学院です。桶谷さんも私も日本文学の専攻者ですから、接触したのは両方の大学とも日本研究の専門家や学生たちです。

中国の大学で日本研究が盛んに行われていることはかねて聞いていました。日本研究と言っても幅は広いわけですが、その実情を二つの大学を訪ねてある程度知ることができたわけです。

桶谷さんと私は観光ビザで中国に入国しました。最初は遼寧大学の公式の招待という話でしたが、出発ぎりぎりの頃になって急に身体検査書を送ってほしいと連絡があり、そんなことをしていれば出発予定日が来てしまうので、観光ビザに切り替えました。エイズの問題がこんなところにも影響を及しているようでした。

中国旅行というと二、三年前までは団体旅行に限られていましたが、最近では個人の観光旅行も認められています。私は去年一度この方法で北京を訪れていますので、凡その旅行の要領は分っていました。

それでも、今度は二つの大学で話をする計画もあり、万事予定通りに進行しなくてはならないので、気を遣いました。例えば、北京のホテルは日本にいて予約できますが、瀋陽のホテルは日本では予約できません。中国民航の国内線、北京・瀋陽間の飛行機の航空券は日本で

買えますが、航空券だけあっても飛行機には乗れません。一種の予約手続が必要で、これには向うの大学の方に随分世話になりました。中国では、飛行機はまだ気軽な足ではありません。飛行機に乗れる人は身元などもしっかりとってはいなくてはならないようです。

それはともかく、私たちは五月四日朝十時に成田を出発し、午後二時十五分に北京空港に着き、北京第二外国語学院の日本語科の二人の先生の迎えを受けました。こちらから私たち二人の写真の前もって送っておきましたから、すぐ分りました。その日は北京のホテルに一泊し、翌日瀋陽に飛行機で移動しました。同じ北京空港から一時間の旅でした。

瀋陽空港でも遼寧大学の二人の先生の迎えを受け、すぐ市内を車で見て廻り、宿に落ち着きました。

瀋陽は中国でも屈指りの大都会と聞いています。人口も全国で四番目とか。中国東北部の中心都市です。そのせいか遼寧大学は大きな組織の大学でした。（中国には私立大学はありません）私たちは翌日この大学で日本研究の専門家を相手に講演をしました。この大学には日本研究所があり、このほかに日本文学専攻の学部があります。桶谷さんは夏目漱石について、私は日本におけるブラジル移民の文学について話しました。

その後、大学食堂での歓迎宴に出席しました。二日後の北京第二外国語学院でも同じでしたが、大学は外国人留学生と外国人資客のため



遼寧大学の先生たちとの記念写真
前列左から3人目桶谷さん、その隣筆者

の特別食堂を持ち、腕ききの料理人を抱えています。各大学とも外国人留学生を集めるために、こうした食堂や料理人が必要らしいのです。料理は勿論中華料理で、遼寧大学では紅焼鯉魚（鯉の空揚げ）がうまく、北京第二外国語学院ではスッポン料理が出てきました。

五月七日（中国に来てから四日目）の早朝、瀋陽を出発して北京に戻りました。万事順調のつもりでしたが、遼寧大学にカメラを忘れてしまいました。カメラは遼寧大学の先生から瀋陽・北京間の汽車の車掌さんに託され、それを北京第二外国語学院の人が受け取るという形で私の手元に届けられました。この点では、中国の人たちに全く迷惑をかけてしまいました。

次の日は、訪中第二の目標である北京第二外国語学院での講演です。今度は日本語科の四年生約六十人ぐらいが聞き手でした。

講演の前、大学の中を歩いてみると、日本語の教科書を大声で読んでいる学生を見かけました。学生たちは全員寮生活をしていて、北京に家のある者でも土曜日しか帰ることができず、徹底した教育が行われているようでした。

そんなわけで、桶谷さんと私の話は学生たちも十分に分かったようでした。私は日本の近代化と文学の在り方などについて話しました。

先生たちとの話し合いでは、寮寧大学でも北京第二外国語学院でも、国際交流が中心の話題になりました。例えば、外国語科目のなかに中国語があれば、その講師を中国の方から派遣したいという話はどちらの大学からも出ました。現に、北京第二外国語学院では神奈川商科大



「紅樓夢」の作者
曹雪芹の記念堂で。
両端は北京第二外国語学院の先生

学に一名の講師と一名の研究員を派遣しているとの事でした。関東学院女子短大では、今のところ外国語科目に中国語がありません。だから、すぐ実現するわけにいきませんが、なかなか興味をひく提案でした。横浜にある短大ですから、外国語科目に中国語があることは望ましいと思います。

帰国前日の日曜日に、北京第二外国語学院の先生に北京市内を案内してもらいました。前年の北京訪問の時に、万里の長城、故宮、天壇など目ぼしい観光名所は見ておりましたので、今回は文学的な遺跡を中心としました。

その一つ、陶然亭公園の中に五・四運動時代の女流作家石評梅とそのプラトニックな恋人高君宇の比翼塚があります。石評梅は高君宇の純愛を理解できず、相手の死後改めてその愛の深かったことに気づいたと言います。

五・四運動の時代こそ、中国の若い女性が初めて社会的に目覚めた時代で、中国でもこの二人のことは最近ラジオでドラマ化されたとの事でした。



「社会的行為としての芸術」

経営情報科 小林 進

新境地で頑張っている小林先生に時代の先端を行く分野に関する投稿をいただきました。



みなさん、元気でがんばっていますか。わたしは本年（六二年度）から経営情報科に移ることになり「芸術

情報論」を担当することになりました。「経営学」と「芸術学」を結びつけるというような途方もない仕事をやっているわけですが、日本では途方もない仕事になってしまっていますが、アメリカの大学のいくつかは既にこの革新的な考え方を中軸にし、学体系化を目指し歩みはじめています。UCLAやサンフランシスコにあるゴールデンゲート大学、フィラデルフィアのドレックセル大学、またわたしが留学していたニューヨーク大学などではカリキュラムが具体化されています。

本学の経営情報科のなかでこの仕事を具体化しようとしていたのが山下輝彦先生（科長）

でした。「女子短大でこんなことをやっても仕方ない。」と当初考えていましたが、「現代社会における女性の役割」や「女性が提議する今日的課題」また「現代芸術」のことを考えると、「女子短大」だからこそやってみるべきだというふうに考えが変わりました。

ケベック、サンフランシスコ、カッセル、ニューヨーク、シドニーなどの欧米諸都市のプロデューサー（制作者）やキュレータ（美術館学芸員）からアーティストの交換プログラムの申し出をよく受けます。そのほとんどが女性です。銀座の画廊オーナーも女性が増えてきました。近年の女性進出分野が先端産業、特にサービス産業に著しいのはこの現象ともリンクすることだと思えます。

「経営学」も「芸術」も社会意識から出発するのだと思います。「経営学」は人間の管理・運営を、また「芸術」は表現という行為をそれぞれ基盤として成立する。換言すれば「人間関係のあらゆる場面」を設定し、研究する分野ということもできるかも知れない。UCLAではさらに「法学」を加え、経営学―芸術―法学を結びつけ、ショービジネス界、マスコミ界に学生を送り出しています。

前述のゴールデンゲート大学は有名大学で

はありませんが、「アート・アドミニストレーション（芸術管理運営）学部」というユニークな学部設置によって、存在意義を確実なものにしました。やはり「経営学」に何を付け加えるかによって実践性・具体性が現われるのだと思います。」

現在『クリスト展』が軽井沢の「高輪美術館」で開催されています。クリストはブルガリア生まれのアメリカ在住アーティスト。彼の巨大で膨大な「梱包」のプロジェクトに関しては美術を知らない者でも周知のことです。例えばクリストの『ヴァレー・カーテン』コロラド川におけるプロジェクト』と題する作業（一九七二年）、『ランニング・フェンス』（一九七六年）などの作品は有名です。コロラド川ライフル谷を横切るハイウェイの上にはオレンジ色のカーテンを張るこのプロジェクトは、総額五〇万ドルのプロジェクトで通常の架橋経費とほとんど変わらないような規模の作業となりました。

また『ランニング・フェンス』は約六メートルの幅のある布を四〇キロメートルの距離に張るといふプロジェクトであった。カリフォルニア州のふたつの郡を横断するカーテンは五五の私有地、十一の私道、十二の公道、三

つの町を通過したのだそうです。もちろん平坦な地形に張りめぐらしてもおもしろくない。サンフランシスコの北方にあるボデガ湾の海中から走り出すカーテンは四〇キロメートルの水平景観を切りとり、ハイウェイ一〇一号に達する。

これら「張る」作品はいくつもの公聴会を通過できなかった。土地所有者、地方行政、連邦政府、沿岸警備隊などの理解と認可である。従来のアトリエでキャンパスに描く作業とは大きく異なる。地面に可能な限り損傷を与えないための建築的技術、自然保護、動物愛護団体との折衝、プロジェクト参加者の募集、資金獲得、公聴会を通過するための芸術上の趣旨説明、法律上の諸問題解決。これら一連の作業が全てクリアさ

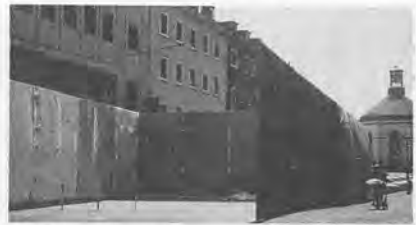


※

れてこの巨大なプロジェクトは着手される。場合によってはプランニングから具体化まで一〇年余必要とされる。もちろん各分野の専門家がボランティアとして、プロジェクトに加わる。しかしあくまでもプロジェクトの中心にいるクリストが全責任を負い、運営・管理していかねばならないだろう。数万人の関係者の動きはまさに人間諸活動の活性化であります。このようなプロジェクトをちょっと考えただけでも、芸術表現という社会的行為に経営能力や法律的知識がいかに必要かということがご理解いただけると思います。

現在西ドイツのカッセル市で『ドキュメンタ8』が開催されています。『ドキュメンタ8』は一九五五年以来四年か五年に一度の間隔で開催されている「現代美術」の展覧会です。わたしも世界各国から集まった批評家、学者プロデューサー、キュレーターと同様、オープニングに招待されました。今回は八回目のドキュメンタで、期間は六月十二日から九月二十日までの一〇〇日間。

この国境を超越した展覧会は「美術のオリゾンピック」と言われています。企画委員会が毎回の開催目的やコンセプトをもとに世界中から優秀アーティストをノミネートします。



リチャード・セラの巨大な鉄板でH型に封鎖する。鉄板は錆び出し、腐蝕する。美しい。

今回の「ドキュメンタ8」のテーマは「芸術の歴史的・社会的次元」で、国際的に活躍中のアーティストと、そのプロジェクト約一〇〇名が、この人口二〇万の小

都市カッセルに滞在し、作品づくりをおこなっていました。約六億円の前算が計上されると聞きます。

現代美術は、従来のアトリエで作品制作をして、美術館に送りこみ、展示するというシステムを拒否して、展示する場所の歴史的環境や時間、社会的諸問題をそのまま作品のテーマとして扱いコンセプトにする。例えば『ドキュメンタ』ではハンス・ハークというアーティストは南アフリカのアパルトヘイト問題を中心テーマに据えている。つまりメルセデス社がアパルトヘイト問題に荷担しているという認識を、メルセデス社のマークをとりつ



イアン・H・フィンレイ
オランジェリー宮殿の前庭のギロチン台がつくるパースペクティブ。西洋世界のさまざまな歴史的イベントが想起される。



※ ジョージ・トラカス
路面電車の軌道上に架橋作業し、高
広場の景観を異ならせ、また、大
さから市民に観察をさせ、立っ
場を中心に大木を逆さに作
り、モニメントを作

けた枠組みのなかに黒人闘争の写真をおさめることによって告発しようとしていた。
またロバート・モリスはユダヤ人虐殺を彫刻的作品にまとめあげていた。
これらアーティストの作品はブリジリチアヌム美術館の他、オランジェリー宮殿やカッセル市の街頭、広場のいたるところに展示されています。

わたしも過去二回、『横浜パフォーマンス・アート・フェスティバル MAY GARDEN』の実行委員長を経験しました。歴史的価値のある建造物など活用したり、公園、緑地地区、港湾地区などの利用を考えたりする場合、かならずさまざまな規則や条例と行きあたる。運営経費も地元財界や企業、商店街、また行政から寄付、助成金、共催金など

という名目で集めなくてはならない。アーティストと共犯関係にある実行委員会は地元のコモンセンスを得ながら、同時にアーティストにより良い条件と状態を提供できなければならない。
現代芸術が社会的行為であり、大きなプロジェクト運営のもとで展開される限り、アーティストにとってもまたキュレーターにとっても新しい枠組で芸術が体系化されていかなければならないだろう。

※ヘーページからの続き
りつめると、あの木造の校舎が待っていて呉れる。始業前に語り合う友人の顔が赤くも、黒くも見える。みんなの顔がそう見える。うす暗い教室。うす暗い電球。あれは一体何ワットの球だったのであろう。

年令も千差万別、そしてこの年になっての男女共学。なかには在学中に将来の方向が大きく変った者、よりよい人生へと再出発した者も多かった。

授業も終えて三々、五々、あの階段をくだる幾十という足音は、一分でも早く我が家へという音だろうか、また明日の生活に急ぎ立てられる音にも聞えたものだ。駅近くの甘いもの屋に駆け込み、「ぞうに」を口にし、その湯気の立つ汁が喉もとを過ぎて、パァーッと温みの体一杯にひろがる時、自分の顔もほころび、友が笑いかける、冬の夜の凍てつく空気の感触は忘れられない。

第二回講演会 好評のうちに……

—同時通訳の鳥飼久美子先生をお招きして—

「これからの世界における日本女性」

要約 葛城 容子

私の友人は、専業主婦から地域の女子高校生を対象に将来の職業ガイダンスをしています。結婚後子育てに手がかからなくなった時に、仕事を求めている遅いし職業も限られてしまう。そうならない為にも、高校生のうちから長期的視野をもって何かを考えていかなければいけない。人間はお金の為だけに働くのではなく、自分の生きがい・自分の能力を活用して、しいては社会の為に役立つことが必要だと説いています。

レディファストとは、男女平等の発想から出たものではなく、女性はか弱きものだから労わってやらねばという発想からきている。そのような点で米国の女性より日本の女性の方が強い面もあるし、気楽な面がある。

米国の女性が大変なこととは、良くホームパーティ



をやることを聞くと思います。米国の場合はパーティによって、御主人の出世を左右することがある。料理などは全て手作りややらなければならぬ。又パーティのやり方を全て御主人と相談をして決めていく。パーティまでには家中を大掃除をする。パーティが始まれば、主婦は台所に閉じこもっている訳にもいかない。共働き夫婦の場合においては、パーティをちゃんとするには、ストレスがたまって大変だと言ふ。新聞の中に特集記事の結論に、妻の役、母の役、仕事をこなしていくには、ストレスに陥るから適当にやれば良いのだと……。自分はどれかにポイントをおいておけば良いのだと説明をしていた。日本の主婦の役は気楽なところがあるが、社会的に刺激がないところがあります。

日本人が真似をしてほしいのに、ボランティア精神があります。根本的には、少し自分が我慢をして、少し自分が犠牲になって、人様の役に立つと言ふ精神が日本には少々欠けている。米国の人はさりげなく手を貸してあげるようです。

最近、留学しホームステイに出かける人達が多く、日本のある業者で高校生で年間三千人位を手がけているそうです。日本全国では大変な人数になります。さてそのホームステイを行なってくれる人達は、殆んど報酬を受け取らないボランティアの人達の善意です。彼らは他国の子供を預ったと言う思い出だけなのです。日本では、住宅事情の問題から、殆んどホームステイをやってくれる人が少ない。米国の大きなきれいな(中流)家庭を知っている日本人としては、住宅事情の関係なのでしょうが、ホームステイばかりではなく、極々親しくなった外国人でも、自分の家庭には招待をしません。日本にも少々ボランティア精神がほしいところです。

米国の専業主婦は何もやっていないことはなく、教会であったり、学校関係であったり、政治的団体であったり活動をしています。個人的考え方によって何かしら社会との接点をもっています。子供が小さくても自分にできることは、社会の為に役立てようとボランティアで頑張っている人が多い。

最近では、日本人への風当たりが強く、日本はT A K EばかりでG I V Eがない。世の中は、T A K E & G I V E なのだから外国から見ると正当ではないと思っています。

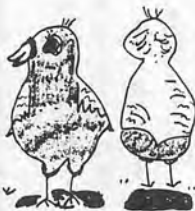
言葉に対する態度に、日本人は重要に考えていない人が多いようです。外国の言葉の量の多さに驚く所がある。日本人は、本当に大切なことは言わない方が良いとか、言わなくてもわかるだろう形式の生活をしていて、言葉で説明する熱意・エネルギーが根本的に違っているように思えます。米国などでは、種々雑多な民族のあつまりの中で共通語である米語を駆使して説明をしないとわかりあえない。日本が外国と切磋琢磨して付き合っていく為には、そう言うやり方もあることを年頭においておいた方が良いでしょう。外国と接する時はかなり意識的に、言葉を駆使して話をしなければならぬ。これは、赤ちゃんからのコミュニケーションの信頼関係の違いによって、育ち方が違ってくるのではないだろうか？ 日本は少数民族であって例外的立場なのでしょう。外国は、多民族の協力のもとに、成り立っていることからも言葉の必要性がある。

日本自身が誤解されている部分がある。それでも最近では、経済的に豊かであり、戦後めざましい復興をとげた、すばらしい国民で教育程度も高い。が女性に対するイメージは、未だかつて変わっていない。日本女性は、殆んど外には出してもらえず、家では虐げられ、家では

なぐられ、外に出たら三歩さがって歩く。ひたすら従従の生活をしていると思われている日本人は奥ゆかしいのかアピールすることが少なすぎるのではないだろうか？

我々は、日本の良さをわかってもらう努力をしつつ、相手国の良さを受け入れていくよう努力することが、今後の国際人と成りうるのではないのでしょうか？

(短国七)



香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

昨年に続いて第二回講演会を心から嬉しく存じます。出来るだけ参加したいと思えます。昨年可会されました上市先生を遠くから拜し、心からおなつかしく存じました。戦後の荒廃した中に育くまれた女専と私達、そして上市せんせいとかかわりは深く、切りはなす事は出来ません。女専短大史寛書を今回も読ませていただきました。次回の御健筆心からお待ち申し上げます。向寒の折、御一同様くれぐれも御自愛のほどを……。

土岐（中川）房子 25 専家

通学時代、港局から三春台へかよいました。が、52年9月戸塚局貯金主事、55年2月藤沢局へ。58年7月課長代理となり60年7月現局の貯金課長としてつとめております。

（藤沢北郵便局） 松本佳子 29 英

今年5月27日、突然、脳こうそくにになり、左半身まひで横須賀市民病院へ入院、若い看護婦さん方の懸命の看護のおかげで2ヶ月を待たずに退院できましたが、体力も気力もなくなってしまう、定年になるのが待ちどろしくしてしかたありません。定年後は、福島県の会津の田舎に丸木小屋を建て、余生を自然の

中でのんびりと暮らしたいと、そんなことを楽しみにがんばっているところですよ。

（横須賀市立北部図書館） 齋田賢造 35 英 II

現在中学三年生の担任及び学年主任をしており、教科は英語を教えています。今迄に七回の卒業生を出しています。趣味は広く、指圧、鉱物採集、心靈学、薬酒づくり、合唱、ダンスとやり、現在は、ワカサギつりに精を出しています。その他、ボーイスカウトの隊長、教会の長老と、一反五敵の百姓と、時間が足りないのが悩みです。家族五人（娘二人息子一人）とも元気で過ごしています。クラスの仲間ともぜひ会いたいと思っていますが……

（岡谷市立岡谷南部中学校）

矢崎靖雄 39 II 英

香葉会誌楽しみにしておりました。私の楽しかった、短大生活の一ページに柳生先生を忘れる事が出来ません。本当に、このたびの悲報に、胸がいたむ思いです。英文科での私達の講義中の先生は、とてもこわくて、きびしくて！（若くて張切っていらしたところですから）それでもなによりも、先生あの素晴らしいブリテッシュイングリッシュ、を意味が

わからなくてもしばしば聞きはれていたものです。とても、あのころのなつかしさ、今の悲しさをしみじみ感じました。

先生、やすらかに。

熊谷（望月）君代 41英

なにげなく習い始めたくみひもですが、趣味がこうじて今では教える立場になってしまいました。いろいろな方に出合う毎に勉強となり、くみひもを通じて自分の人生に少しでも役立てたらと思います。後輩の方に興味のある方が居りましたら是非御一報いただけたいと思います。

松本（高崎）良子 43英

防大より、昨年八月、豊川市へ転勤したばかりですが、今年三月、再び、御殿場市へと転勤となり、この七月には、三男誕生と、忙しくすごしております。結婚して早くも十年が経ち、長男九才（小三）、二男五才（年中）、そして三ヶ月目の三男と、にぎやかさの中にも、倅せな毎日でございます。

柳生先生が、九月三日、天国へと召され、さみしく思います。短大生として、シエークスピア劇に参加する中で、先生のお人柄に触

れることができたことは、大きな倅せでした。ご遺族の皆様が悲しみから、立ち直られますよう、お祈りします。

松本（高島）悦 50英

幼児教育科を卒業した、私が、いざ、自分の子供を幼稚園へ入学となった今、自分の思いと現実とが、うまくいかず、結局、自宅から、一番近く、周りの遊び友達がみんな通っている幼稚園へ決まりそうだ、「自分の子供が幼稚園へ、入る時は、いろいろ吟味して……」と思っていたのに、世間に、流されていくにつれ、学生時代が、なつかしく、思われしかなかったが、今頃です。

茂垣（川島）陽子 54幼

私は、今年の夏、メキシコの遺跡にひかれ、メキシコの友人の心の豊かさ、そして、あの笑顔に会いたくて、お盆休みを延長させて頂きまして行ってまいりました。

メキシコは、治安が悪い、地震が多いと云われておりますが、メキシコの方々は、全般的に、親日的だと思えます。

私は、三年前に、スペイン語を勉強し始めました。英語も、スペイン語も、どちらもむ

ずかしいですが、現在、私の生きがいです。何年かかかるかわかりませんが、辞書なしで話しができたらと夢みております。

これから、寒さも厳しくなっております。くれぐれも、編集部の皆様、お風邪を召しませぬように、がんばって下さい。

（嶺神奈川ココロ）日下ゆかり 55英

先日、新聞で、柳生先生の亡くなったことを知りました。入学式、そして卒業式の時に語られた、短刀直入の話（聖書のことばも含め）は、今も心に残っています。

まだまだ、活躍していただきたかった……と悔やまれますが、主の前に「走るべき道のりを走り通した……」のでしうね。

地元で、保母をして、五年目。四才児24人の担任です。

いろいろな子ども、そして、いろいろな家庭を見えています。力のおよばないもどかしさを感じつつも、楽しい毎日を通しています。

そして、「生涯―保母でいたいな」などと思う昨今です。

夏の事件は、ショックでした。

母校に祝福があるように祈ります。

（寒川町立旭保育園）佐藤道子 57幼

柳生院長が召された事を、前号の香葉を讀んで、初めて知りました。私も昭和57年4月短大の入学式以来、先生の生き方に魅力を感じていた者のひとりとしてとても悲しく思っております。主の御許に憩われます事を心よりお祈り申し上げます。

菅原孝子 59幼

卒業して、早3年近く経とうとしています。社会人としての生活もすっかり慣れた今日のごころです。毎年香葉が届くたび、母校で過ごした2年間の想い出がよみがえり、とても楽しいひとときがすごせて感謝しております。学生時代、学んだ食物及び栄養学の知識を忘れないために、入社半年目からはじめた女子栄養大学の通信教育も終了し、今年10月から、日本女子大学家政学部食物科(通信教育過程)に編入学し、ふたたび、大学生として学ぶ事になりました。大学から送られてくる「女子大通信」の中の家政学会の報告の中に母校の先生方のお名前を見つけたいへんうれしく感じました。母校の今後ますますのご発展を、心よりお祈り申し上げます。

(群馬総合リース株) 田中紀子 59家

昨年は香葉を手にすることが出来ずにいたしたので今年は何とでもなつかしく思いました。ページをめくると立派な先生が死去されたこと、とても残念です。しかし短大では次々に新建物建設で喜ばしいご発展の様子に私も長男が来春には小学一年生に、長女も二才を過ぎ、毎日忙しく過ごしております。今年こそはみな様にお会いしたいと思っておりますが、

旧職員(庶務課) 小倉(小糸)美子

短大を卒業し、そろそろ2年がこようとしています。今、こうして香葉会誌を手にし、母校を懐かしく思う今日のごころです。国文科を卒業して以来、あまり「文学」に親しむ機会がなく、暇をみつけては本を読むことを心がけているのですがなかなか……。変体仮名を一文字ずつ、たどたどしく読んでいたあの頃。源氏物語やとはずがたり等、母校のこのような会誌は楽しかった2年間と、KGCのキャンパスを思い出させてくれるものです。いつまでも関東学院女子短大とのつながりをもっていたいと思います。学生時代より増してスキーやテニスに熱中している今日のごころ。少し社会人としての自覚が足りないかな

とも思ったりもします。倉敷という遠くにいる為、なかなか母校へ足を入れる機会がありませんがチャペルも着実に完成に近づいているとのこと。自分の母校で結婚式をあげられたら……なんていう甘い夢を見ながらペンをおきたいと思えます。皆様お元気です。

(三菱瓦斯化学㈱) 水島工場)

鈴木由美子 60国

出身地就職希望のため、Uターンいたしました。が、就職先がなく、本年度4月より、臨時職員として公立の保育所に勤めています。一年間の契約なので、本年3月までの勤務となり、その後は未定です。こちらでは毎年、正採用へは、厳しい状況にあり、公私の園ともに採用の見込みは、ゼロに等しいでしょう……。未熟な私でも、子どもへの誠意とフアイトは、十分なつもりですがとても悔しい思いです……。幼児教育科、朝倉先生・小室先生はじめ、みなさん、お元気ですか？ 短大時代がとてもなつかしいですね。みなさまのご多幸をお祈りいたします。

(富山市立水橋西部保育所) 前田淳子 61幼

クラス会報告

〈家政科四十年卒クラス〉

同期会を終えて

短大を卒業し、早や二十年の歳月が流れ、我が娘（十七才）が、ほぼ、その頃の自分の年齢になるとは、改めて年を感じさせられ、娘が羨しい限りのこの頃です。

今回、本木（後藤）さんがシンガポールから二か月程帰国出来るので、この際、皆様とお逢いしたいということから、本当に久し振りに二回目的（一回目は卒業直後）家政科四十年卒の同期会を去る七月一日、中華街にて、開催いたしました。奥様業にひたりきっている方、キャリアウーマンで張り切っている方、お子さんを外国の大学に出される方、まだまだ可愛いおチビさんのいる方、それぞれの近況報告を終えると、ハチの巣をつまいた様に、ワイワイ、ガヤガヤ、二十年のプランクも一瞬のうちに消え、懐かしい顔顔……。予定された時間もあつと言ひ間に過ぎてしまいました。二次会にホテルでお茶を飲み、次回の幹事さんを決め、また近年中にお目にかゝることを約束して、散会致しました。

今回同期会を開催するに当って、香葉会事務局にはいろいろとお手数をおかけしましたが、おかげ様で三十二名の方の出席を得られ、盛会に終ることが出来、感謝しております。

また今回連絡のとれなかった皆様には、大変申し訳け御座居ませんでした。次回の幹事は、田所（内野）さん、〇四六五（二二）五二九五、大松（吉邑）さん〇四六六（三四）三六二五、高橋（堀越）さん、〇四五（四二）九一〇七、がして下さいますので、どうぞ御連絡なさって下さい。

母校の増々の発展を心よりお祈り致しております。

舟橋（野田） 智子記

〈四十三年卒、女子寮生、同窓会〉

去る十一月十六日（日）上野タカラホテルにて、念願の女子寮同窓会、第一回を開くことができました。実に、十八年ぶりのことです。二十五名中、十二名の出席（遠くは、仙台から）で急なことでしたので、これは、予想以上の出席でした。良くも悪くも、青春の一時を共有した私達の再会の様子をどうぞご想像ください。つきること無い話題の数々

で時のたつのも忘れて、二次会、三次会と帰ろうとする人も無く、このような会合に参加できることの幸せをかみしめました。

当時の寮アドバイザーの岡松先生の再度の受賞を共に喜び合い、又、学院のシンボリック存在でもありました、柳生先生のご冥福をお祈りして、後髪ひかれながら、それぞれの帰途につきました。

次回の世話役さんも、しっかりと決まっていますので、今回やむなく欠席だった方々、ご安心ください。

尚 次の方の消息が、どうしてもわかりませんのでご存知の方、ご一報ください。

旧姓 篠原貴子、岡本、柴田静枝、井上みはる

連絡先 中内（石川）純子記

〇四七二（七七）四七五二 中内純子
〇四七四（五三）五一六九 倉田佳子

（和田）

ㄨㄨ



賛助金をご寄付

くださった方へのお礼とお願い

今年も後記の方々から総額「四十七万九千円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなっておりますが、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集員一同がんばっておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

六十一年度賛助金寄付者(敬称略)

佐藤久子 小泉小夜子 飯田呀子 早野佳恵
 錦織マサ子 森田美佳 松本紀子 岸本有加
 井上由紀子 玉木宮子 安藤憲子 田中綾子
 斎藤恵美子 布施里佳 戸谷洋子 岡崎幸恵
 岸京子 霜鳥三枝子 清田恵美子 笠木茂伸
 吾妻美恵子 高山政子 浅葉勝美 馬場直子
 奈良喜美枝 宮川宏美 中里玲子 河原篤代
 山崎由紀子 作山智子 志村雅子 矢田宏子
 土山忠 梅山フク江 松浦きぬ江 熊谷君代
 上川奈緒子 池田久美子 溝口泉 中川あや
 高橋みどり 丸山勝代 田中菊江 小川洋子
 青鹿なおみ 山田しお 渡辺光代 片桐和子
 中田美恵子 梶原慶子 有田玲子 傳田照子
 小林寿恵子 土屋明子 井田玲子 矢島寿子

米元真由美 加藤和子 須田広子 和田澄恵
 長谷美喜子 海渡明子 徐多恵子 寺内雅子
 日原美登里 小川直美 鈴木末子 鈴木洋子
 河内千華子 小林千鶴子 仲尾曜 田中久恵
 一柳厚子 中村小百合 斎藤比子 加藤敏子
 高田幸恵 古郡綾子 大井法子 有井富士子
 柳生二三 青木美代子 大場幸子 露木球恵
 越智協子 山口登紀子 菅野弘恵 菊地和子
 小野瑞枝 佐藤洋子 関谷由利子 松田良子
 山本長生 高瀬節子 前納順子 島田絵里子
 土岐房子 椎名和美 肆矢三佐子 住吉桂子
 五十嵐増枝 保園洋子 石守多み 関根由美
 山口周子 長谷部恭子 菅野明美 齊田実子
 神山孝子 木村燐子 金子美佐江 吉野葉子
 大竹真理子 漆畑晴枝 高橋静子 鈴木鶴子
 飯田三都子 伊藤陽子 田辺洋子 久保弘子
 岡部安耶子 鶴見智子 高橋秀子 田中晴子
 主馬野敦子 鷺津道子 原嶋曜子 成瀬節子
 漆戸裕子 福岡世紀子 武田弘子 長崎洋子
 田辺美紗子 江幡玲子 細野清美 納所節子
 小野寺玉江 土屋幸枝 山田晴美 鈴木葉子
 関令子 後藤美和子 大石豊代子 小林美喜
 見目光江 海野羊子 伊藤陽子 篠原愛子
 鈴木千春 岡田貴子 中村はるみ 大坂恵子
 志村美津子 小野和子 桐生和子 中村雅子

斎藤理恵子 増本順子 澄谷亮子 皆美弘子
 中村智子 橋本朝子 田牧洋子 長谷川有紀
 吉屋保子 鈴木トク子 上原理恵 宮川由美
 野島佐和子 松井卓賀子 南川洋子 土山忠
 石渡千恵子 志賀ミチ 蜂谷弘子 安彦潤子
 長谷川不二恵 今村佳也子 井上多恵子
 藤原由貴子 出榮美子 須永洋美 峯尾愛子
 佐藤美代 相原梅子 成川勝子 洲上龍美
 山本吉枝 平間敦子 山口桂子 船橋智子
 明山美智子 福崎浩子 中村照子 中西文子
 鈴木恵美子 飯吉玲子 池谷和佐子



昭和 61 年 度 決 算				昭和 62 年 度 予 算	
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部	予 算
会費@8,000×(736+1)	6,296,000	6,296,000	0	会 費	8,201,000
贊 助 金	400,000	454,000	△ 54,000	贊 助 金	400,000
委 託 販 売 手 数 料	700,000	751,173	△ 51,173	委 託 販 売 手 数 料	350,000
預 金 利 息	10,000	11,971	△ 1,971	預 金 利 息	10,000
雑 収 入	5,000	25,806	△ 20,806	雑 収 入	5,000
前 年 度 繰 越 金	1,291,020	1,291,020	0	前 年 度 繰 越 金	1,824,577
合 計	8,702,020	8,829,970	△ 127,950	合 計	10,790,577
支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部	予 算
通 信 費	2,200,000	1,571,695	628,305	通 信 費	2,200,000
印 刷 ・ 製 本 費	800,000	770,894	29,106	印 刷 ・ 製 本 費	1,000,000
総 会 ・ 会 合 費	1,100,000	706,623	393,377	総 会 ・ 会 合 費	1,000,000
交 通 費	150,000	146,400	3,600	交 通 費	160,000
用 品 費	500,000	0	500,000	用 品 費	300,000
備 品 費	40,000	13,235	26,765	備 品 費	40,000
委 託 費	100,000	62,500	37,500	委 託 費	150,000
謝 礼 費	100,000	70,000	30,000	謝 礼 費	100,000
消 耗 品 費	50,000	14,258	35,742	消 耗 品 費	30,000
人 件 費	1,200,000	993,318	206,682	人 件 費	1,200,000
合同同窓会分担金@300×787	236,100	236,100	0	合同同窓会分担金	226,500
新 入 会 員 歓 迎 費	1,000,000	859,000	141,000	新 入 会 員 歓 迎 費	1,100,000
名 簿 発 行 準 備 金	200,000	400,000	△ 200,000	名 簿 発 行 準 備 金	700,000
特 別 会 計	500,000	1,000,000	△ 500,000	特 別 会 計	500,000
雑 費	25,920	6,820	19,100	雑 費	84,077
予 備 費	500,000	154,550	345,450	予 備 費	500,000
次 年 度 繰 越 金	0	1,824,577	△ 1,824,577	坂 田 記 念 館 寄 付 金	1,500,000
合 計	8,702,020	8,829,970	△ 127,950	合 計	10,790,577

合同同窓会報告

○この数年間、協議を重ね、専門家のご意見を検討し、只ひたすら会館取得の為に努力をしてきましたが、この一年の不動産の信じ難い程の高騰に、現時点では入手不可能という結論になってしまいました。誠に残念な事ですが、先に希望をもって、継続審議していくことになりました。ご諒承下さい。

○坂田記念館がいよいよ着工間近になりました。現在三春台校地内にある霞ヶ丘教会と坂田祐先生記念の遺品展示室、会議室等を含む会館になるそうで、合同同窓会として、寄付をさせて頂くことになりました。いづれ完成の時は、是非ご利用下さい。

「県央の集い」報告

毎年十一月に開かれていた県央の集いは、燦葉会支部として発足したとのこと、この会に燦葉会の会員も共に招かれて着実な歩みを始めております。昨年は十名程の方が参加して下さり、県央支部の委員を引受けて下さる方もいて、この地方の大学、短大の卒業生の家族的な交流の場として発展していくことを燦葉会としても応援したいと思っております。どうぞ沢山の方が参加して下さいよう、お願いします。

『覚え書』休刊について

「燦葉」創刊より続いておりました『覚え書』ですが、今回執筆者の上市二郎前事務長ご本人のご都合により、お休みさせて頂いたことになりました。毎年楽しみにして下さっていた卒業生の皆様、本当に申し訳ございません！尚次号には必ず登場していただく約束になっていますので、ご期待下さい。又、上市先生は永年住み慣れた横浜を離れ千葉県君津市へ転居されました。新しい住所等のお問い合わせは燦葉会事務局へどうぞ。先生からお便りが届いておりますので、一部ご紹介いたします。

週日は突然的なる事情によって執筆中止を申し、また会長さん始め編集委員の方々に大変ご迷惑をおかけしたことに存じます。委員の方々に大変お詫言わせていたと存じます。在ち、全会員の皆様にも誠に申し訳なく存じております。次号にはこれと、この地を離れまして、その分まで努力したいと考えております。のでよろしくお祈り申し上げます。考えますと一筆お詫言を申し上げたいと気持ちがあります。

『母校ニュース』

新任教職員の紹介

教員 ①職名 ②担当科目 ③出身校

大越 公平先生——一般教養科



- ① 専任講師
- ② 文化人類学
- ③ 明治大学

大谷 立美先生——英文科



- ① 専任講師
- ② 翻訳・通訳論、英会話
- ③ 明治大学

山田 哲雄先生——家政科



- ① 専任講師
- ② 学校保健、レクリエーション実技
- ③ 筑波大学

井口 伸先生——経営情報科



- ① 教授
- ② 会计学
- ③ 成城大学

金子 義幸先生—経営情報科



① 助教授

② 事務管理

③ 早稲田大学

斎藤 直機先生—経営情報科



① 助教授

② 経営学概論、経営管

理論

③ 小樽商科大学

職員



田畑千重子さん

英文科教務職員

六十一年度英文科卒



徳野麻有美さん

家政科教務職員

五十八年家政科卒

(昨年より専任として
奉職中)

相原弥寿子さん



家政科教務職員

五十九年家政科卒

勝島 智子さん



家政科教務職員

六十一年家政科卒

三瓶 弘子さん



家政科教務職員

六十一年家政科卒

引地由佳里さん



家政科教務職員

六十一年家政科卒

今江 るみさん



幼児教育科教務職員

五十八年幼児教育科卒

宮崎 雄吾さん



庶務課

関東学院大学六十二年卒

福島 秀子さん



教務課

六十二年英文科卒

菊池 美穂さん



教務課

千代田工科芸術専門学校六十二年卒

川端乃利子さん



就職課

六十二年国文科卒

可部 明子さん



図書館事務課

六十二年国文科

〈経営情報科新設される〉

昭和六十年七月より設置申請を行っていた経営情報科が、厳しい審査を経て昭和六十一年十二月二十三日に認可されました。入学定員は五〇名、学科長には山下輝彦教授が就任されました。この新設により五学科三専攻の総合短大としてまた一歩前進しました。

短大の経営情報科は企業経営に必要な経営学・経営管理の授業、情報処理の技法による実務能力を身につける学科ですが、短大の場合はこの他に芸術情報論やメディア論、女性の授業も開設されています。これは現在機械化や情報化の中で一段と必要性を増している人間関係、人とのコミュニケーションをより豊かにするために設けられたものです。芸術を通して自己形成を図ると共に、美的センスを伸ばし、職場や家庭に潤いをもたらす女性になって欲しいという願いがあるからだとか。

また、横浜という国際都市に位置して



いることから、英会話や実用英語、国際関係論等設け、国際化の中で活躍できる女性の育成をしていく考えです。

このように我が短大の経営情報科は幅広い教養を身につけた感性豊かな育成をめざしています。

〈チャペル落成披露ならびに、女子教育四〇年記念式典、盛大に開催〉

念願のチャペルが六十二年三月三十一日に完成し、四月十一日盛大な落成披露が行われました。多数の卒業生、そして香葉会からも会長はじめ役員が出席し、学



校関係者、来賓を含め二八〇余名の方が列席しました。林学長より四〇年記念の意義と女子教育の重要性を説いた式辞があり、高野理事長より勤続二〇年以上の教職員表彰も行われました。記念講演として神戸女学院院長の岡本道雄先生の「女子教育とキリスト教」

という題で記念事業の趣旨にふさわしい感銘深い内容でした。

〈鳥越ノリ先生が名誉教授に〉



元家政科の鳥越ノリ教授の短大教育における永年の功績に対し、六十二年四月一日、名誉教授の称号が授

与されました。先生は本年三月に退職されるまでの三十二年間、主に被服学や被服構成、同実習を担当されました。家政科の卒業生には母のようにやさしく暖かい先生として誰からも愛されていた先生です。先生が昭和三〇年に短大に奉職された頃は貧弱な教育施設しかなく、また財政的にも不安定な時期であったと伺っていました。その中で地道な教育・研究活動は現在の家政科の礎となっています。鳥越先生の授与により、短大の名誉教授授与は七人目となりました。

《関東学院創立100周年記念事業資金寄付者芳名》

昭和59年6月よりご協力をお願いしておりました上記寄付に対し、暖かいご支援、ご協力ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

ここに短大卒業生（含学院関係教職員のうち卒業生のみ）のお名前を記載いたします。尚今回は昭和62年6月30日現在までの集計です。

短大ではチャペルが完成し、2年後にはパイプオルガンが設置されます。

引続き、短大発展の為寄付にご協力下さい。（受付順になっています）

岩下ひろ子	10,000	須田 広子	10,000	関根由美・薫	30,000	小谷八千代	30,000	梅田 玲子	30,000
吉田千恵子	10,000	鹿渡 泰子	10,000	錦織 マサ子	20,000	洲上 龍美	30,000	篠原 愛子	10,000
神部 映妙	10,000	原 年子	30,000	中野ノブ子	30,000	藤城 栄子	10,000	保延 弓美	30,000
徐 多恵子	100,000	加沼 茂子	30,000	全日本リトミック	30,000	河合 晶子	10,000	久保 弘子	30,000
柳生 二三	100,000	志賀 ミチ	30,000	吉田 寿子	100,000	中根 悦子	5,000	河合 章子	50,000
木村 輝子	10,000	森谷 敦子	10,000	北村 良子	30,000	青木美恵子	10,000	保延 武男	100,000
鈴木美智代	30,000	樹田 恵利	30,000	渡部 勉	10,000	青木千恵子	10,000	山内 晴美	5,000
梅沢みゆき	30,000	大橋 通恵	10,000	村形 良子	30,000	山田美穂子	10,000	杉浦 睦子	3,000
田村 充司	30,000	三田村愛子	50,000	三村 勝美	30,000	竹村 久子	10,000	小濱 朝子	10,000
黒木のり子	10,000	橋本 美香	10,000	ラタナチップ・カフアン	30,000	久米とし子	30,000	中村 智子	10,000
原 恵美子	30,000	山下 信子	10,000	吉田 初美	1,000	加藤 章二	60,000	大河原晶子	3,000
中村 道子	30,000	長谷川有紀	30,000	米村 昭子	10,000	山口 友恵	30,000	原 淑子	30,000
中野 節子	10,000	岡崎真理子	30,000	福井杜美江	30,000	井上 啓子	40,000	境 真由美	30,000
岡崙 幸恵	30,000	天羽由里子	10,000	月本 鈴子	10,000	渡辺 礼子	2,000	峯尾 愛子	10,000
浜田 節子	10,000	宇田川キヨ	30,000	リーダー・実子	20,000	佐藤千代子	2,000	土山 忠	10,000
岩沢 智美	30,000	山本 初江	10,000	我妻千恵子	10,000	田辺八千代	2,000	宮川 宏美	30,000
小林とよ子	30,000	岩本 文子	30,000	新堀 妙子	10,000	大槻 和子	2,000	漆 美子	30,000
榊原 恵子	10,000	肆矢三佐子	10,000	石井 恵子	10,000	外山 良子	2,000	加瀬 雅子	10,000
伊藤 陽子	10,000	大高 悦子	10,000	行谷 政枝	30,000	内山 道子	3,000	岩本ひろみ	10,000
濱田 保子	30,000	鈴木 清子	30,000	小野寺玉江	30,000	樋渡アキ子	20,000	伊藤 陽子	10,000
島本 千佳	10,000	菊地原敦子	20,000	相吉 典子	100,000	小林千鶴子	30,000	中村はるみ	10,000
山室 幹子	10,000	浅原 俊枝	30,000	漆 康	60,000	内田 駒子	30,000	永井八千代	30,000
高橋 咲子	10,000	小川 富江	10,000	小川 正平	20,000	池上 尚子	30,000	伊東みゆき	10,000
阿部 聖子	10,000	梅山 治子	10,000	瓦谷 静子	100,000	横山 創	100,000	篠原 淳子	10,000
晴山知佐子	30,000	田中 雅子	30,000	洲崎 兵一	10,000	保科 恭子	30,000	伊藤安希子	10,000
西山吉五郎	100,000	川本 良子	10,000	渥美 裕子	10,000	青木 葉子	10,000	小林 豊子	10,000
成宮 清美	30,000	斉田 実子	30,000	成田 恵子	15,000	守屋 麗子	30,000	高橋 明美	10,000
大井 法子	10,000	一之瀬洪子	10,000	原田 悦子	10,000	中嶋貴美子	10,000	栗原 康子	30,000
高木 幸子	30,000	森田吉世江	10,000	佐藤 久子	10,000	澁谷 亮子	10,000	吉田きみ子	5,000
成井日出子	10,000	古城 房子	200,000	北見 智恵	30,000	小林 守信	30,000	金子 貞子	20,000
山田 光子	10,000	松本 政子	60,000	土橋かおり	15,000	菊地 和子	10,000	松本 紀子	5,000

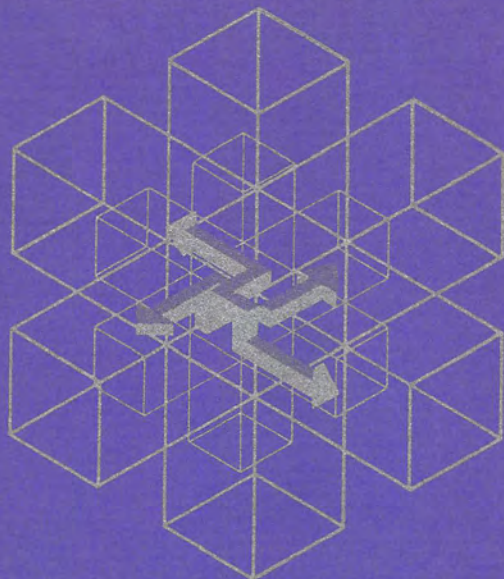
荒明	素子	10,000	大東	美夫	10,000	大高	悦子	10,000	中西	愛子	10,000	小堀	富美子	20,000	
バブ	クッ	10,000	大越	浩子	30,000	小泉	すみ子	10,000	土岐	房子	10,000	藤岡	恭子	20,000	
磯野	澄子	10,000	和久井	喜美子	50,000	出	栄美子	10,000	山田	信保	30,000	高田	晴美	20,000	
古野	祐子	10,000	石守	あみ	60,000	和田	照子	10,000	松田	良子	20,000	冠木	啓子	20,000	
鈴木	貞	30,000	相原	梅子	10,000	前納	順子	10,000	馬場	敦子	3,000	勝又	千里	20,000	
中里	玲子	10,000	山村	正子	30,000	小知	屋幸江	10,000	山口	あかね	20,000	庭野	浩美	20,000	
小泉	実	30,000	鈴木	松雄	30,000	井田	玲子	10,000	山口	祐子	20,000	荒井	千香子	30,000	
金田	宏子	10,000	山吉	たか子	10,000	大野	絢子	10,000	細野	清美	30,000	佐藤	庸子	30,000	
井上	幸子	10,000	塩鷲	雅子	10,000	中野	陽	10,000	三沢	洋子	10,000	皆川	礼子	20,000	
谷垣	みどり	20,000	安彦	潤子	30,000	関口	清子	10,000	島山	洋子	30,000	山下	真子	20,000	
高堂	まゆみ	30,000	中村	清美	10,000	飯吉	玲子	10,000	見目	光江	30,000	布施	里佳	60,000	
平間	敦子	30,000	石田	祐子	30,000	長浜	寿美子	10,000	金田	晴美	30,000	神藤	敬子	60,000	
河辺	陽子	10,000	吉原	佐貴子	20,000	多田	祥子	30,000	福永	千織	30,000	金子	美由紀	20,000	
清水	輝子	30,000	片桐	和子	10,000	浅葉	勝美	100,000	井上	啓子	20,000	勝島	智子	30,000	
金尾	倫子	30,000	金子	美佐子	20,000	平井	初枝	10,000	新海	浜子	30,000	相原	弥寿子	50,000	
重田	浩美	10,000	正木	明子	30,000	高石	佳子	10,000	忍谷	幸	30,000	望月	和美	10,000	
薬品	佐代子	10,000	田辺	けい子	30,000	鈴木	恵美子	30,000	黒坂	紀代子	30,000	安藤	玲子	10,000	
林	敦子	10,000	遠藤	深雪	10,000	庄古	裕子	30,000	遠藤	英子	30,000	岩崎	淳子	10,000	
武田	与惣治	50,000	蜂谷	弘子	30,000	吉原	千恵子	20,000	田中	智子	30,000	鈴木	直江	10,000	
国分	静栄	5,000	細田	喜久子	10,000	神原	加奈恵	30,000	長山	直美	30,000	岩井	雅子	10,000	
石黒	和子	20,000	中山	美代子	30,000	長谷川	不二恵	20,000	川名	幸子	30,000				
石田	不二子	10,000	陶山	正代	10,000	松山	順子	10,000	今村	佳也子	30,000				
田中	豊	30,000	三浦	愛子	10,000	相原	智子	30,000	小山	薫	30,000				
都竹	道美	10,000	田中	和子	50,000	三沢	洋子	20,000	太宰	美紀子	30,000				
広川	契子	10,000	平尾	富子	10,000	鈴木	明美	2,000	吉村	澄子	30,000				
佐藤	美代	10,000	矢野	ミミ子	10,000	古田	紀巳子	60,000	徳野	麻有美	30,000	香	葉	会	5,000,000
宮沢	久美子	30,000	飯島	敏子	10,000	土岐	美智子	100,000	市川	綱代	20,000	柳	生	二三	2,000,000
小島	美次	10,000	横山	はる代	10,000	田牧	洋子	30,000	樋口	由美子	20,000				

編集後記

香葉十六号、いかがでしたでしょうか。今年には企画、原稿依頼、割付け、校正等、会長始め幹事の皆さんのご協力を得、又無理を聞いてくれる印刷会社の方のおかげで発行することができました。いつもながら超人的な忙しさの中、心良くご執筆いただいた林学長。貴重な海外でのご経験をお寄せ下さった先生方。又四十年の特集にご投稿下さった諸先生そして卒業生の皆さん。本当にありがとうございます。御礼申し上げます。

短大も一段と教育、設備共に充実し総合短大として益々大きくなってまいりました。香葉会としても卒業生に関するエキスパートにならなければ、と今年はコンピュータを取り入れ膨大な資料の整理に力を入れました。住所変更等できるだけご連絡下さい。毎回同じお願いですが、皆様からのお便りだけがたよりです！よろしくご支援下さい。そして短大に足をお運び下さい。お待ちしております。

いろいろ細かいところでツマツキ、編集はツライ！？と思いつながらも、楽しみにしていますよ。のことばにまた次号も頑張ろうと腕まくりをしてしまおう、編集長でした。井上記



後輩へ就職求人を!

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。短大生ご採用のお話しがございましたら、下記就職課迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内258・281

関東学院女子短期大学就職課

香葉 第16号

昭和62年10月25日 印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会
代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236
関東学院女子短期大学内
電話《045》784-1491 (内線216)

